

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない四国地域の中核拠点病院の機能評価と介護療養体制整備
課題番号：24HB1003

【分担研究1】拠点病院を中心とした教育講演、意見交換、研修教材の作製

研究分担者：末盛 浩一郎（愛媛大学医学部 准教授）

研究要旨：

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV 患者数は増加傾向にあり、全国で最も高齢化が進んでいる地域の一つであることから、HIV 患者の高齢化も顕著に進行している。今後、HIV 患者に対する介護および療養体制の整備は喫緊の課題であるが、現状では中核拠点病院への患者の集中が見られ、各県内のエイズ拠点病院における機能および介護・療養体制は必ずしも十分とは言えない。本研究により、比較的医療資源の乏しい、いわゆる「地方」においても、HIV 診療体制および介護・療養体制の充実と地域間における均てん化が促進されることが期待される。

令和6年度の研究成果として、拠点病院を中心としたネットワーク会議、意見交換、研修教材の作製を行った。愛媛県では拠点病院の再構築が進められ、新たな体制の整備が実現された。また、四国地域に所在する全ての中核拠点病院の医療従事者を対象とした研修会を開催し、診療ならびに地域連携に関するスキルアップを図った。併せて本研究の最終的な目標の一つである介護療養体制整備に関して、具体的な症例提示を通じた検討および情報交換を行った。本研究により四国地域の拠点病院を中心に、現場の実情に即した体制整備が進められ、今後さらなる体制の改善と医療連携強化が期待される。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・特命教授

山之内純・愛媛大学医学部附属病院・准教授

木原久文・愛媛大学医学部・助教

武内世生・高知大学医学部・准教授

内田俊平・香川大学医学部附属病院・助教

尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長

三木浩和・徳島大学医学部附属病院・講師

乗松真大・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師

池田聖・愛媛大学医学部附属病院・社会福祉士

A. 研究目的

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV・エイズ患者は多く、当院においてもこれまでに累計 220 名以上の患者を治療している。近年、四国地域における HIV・エイズ患者数は増加の一途をた

どっている。中核拠点病院に患者が集中する中、他の拠点病院においても診療・連携が求められるが、診療未経験および対応が困難な状況が四国では特に著しい。四国地域における高齢化率は33%を超えており、都市部と比較して中高年層の患者が多い傾向にある。また、エイズ罹患率も40%を超えており、中年層においてもActivities of Daily Living (ADL) の低下が認められ、日常生活に支障を来し、自宅での療養が困難となるため、長期的な施設療養を要する症例も散見される。

当院でも、長期療養が必要な患者に対して他施設への紹介・受け入れを個別に調整しているが、受け入れ先の確保には難渋することが多い。加えて、医療的対応にとどまらず、家族支援・就労支援・経済的支援など、患者を取り巻く多様な社会的課題への対応も求められている。

一方、これらの課題に対し、中核拠点病院のみならず、各地域に所在する拠点病院との診療連携および体制構築が不可欠である。先行研究により、これらの取り組みは徐々に改善傾向を示しているものの、四国地域においては依然として不十分な点が残されており、本研究の継続および発展が強く求められている。行政機関や各県の研究分担者と密接に連携することで、現場の実情に即した診療体制の整備が期待されるとともに、四国地域を地方モデル地域と位置付け、全国に対しても情報発信していきたい。

B. 研究方法

四国全体における各拠点病院のHIV診療に関する啓発および意見交換を促進する

ため、各県の行政機関の協力を得て、HIV診療ネットワーク会議の開催や各病院での講演会を実施し、併せて情報収集を目的とした意見交換を行う。また、介護療養体制整備に資する研修教材の作製にも着手する。加えて、四国地域に所在し、拠点病院を指導的立場から支援する中核拠点病院の医療従事者を対象とした研修会を開催し、診療実践および地域連携に関するスキルの向上を図る。

(倫理面への配慮)

本取り組みは、患者および関係者の人権の保護に十分配慮して実施され、協力が得られない場合においても、当該者が不利益を被ることのないようにする。

C. 研究結果

愛媛県においては、令和7年2月21日に「愛媛県エイズ診療ネットワーク会議」がハイブリッド形式（現地およびWEB）にて開催された。本会議には、拠点病院をはじめ、診療協力病院・クリニック、保健所、歯科医師会、愛媛県健康増進課、衛生環境研究所等の関係機関の代表が参加した。

会議では、以下の3演題の講演が行われた。第1に、「愛媛県のHIV/AIDSの届出状況等報告」では、これまで減少傾向にあった年間患者数が増加に転じたことが報告された（図1）。第2に、「愛媛県内のHIV/AIDS診療体制について」では、2024年8月に実施された拠点病院の再構築に関する報告とともに、県内各地区における患者情報の提供がなされた（図2）。第3に、「拠点病院の現況について」で

は、再構築された3つの拠点病院から、それぞれの現状および直面している課題に関する情報提供が行われた（図3）。資料作成も同時に行い、参加者に配布した。

令和6年11月6日、愛媛県歯科医師会において、四国内の全歯科医師および歯科衛生士を対象としたHIVに関する講演会が開催された。本講演会では、「歯科診療におけるHIV感染症のポイントと愛媛県の現状」をテーマに、HIV感染症に関する知識の共有および地域における現状の理解を目的とした講演を実施した（図4）。また、愛媛県歯科医師会より歯科衛生士専門学校でのHIV教育の実施が困難であるとの相談を受け、当該講演会内容を教育ツールとして活用することとなり、令和7年3月6日に講演会動画が歯科衛生士専門学校において教材として使用された。その後実施されたアンケート調査では、「講演会の理解度」、「HIV感染症に関する理解度」、「HIV陽性患者の受け入れに対する意識」において、いずれも概ね良好な結果が得られた（図5）。資料作成も同時に行い、講演聴講者に配布した。

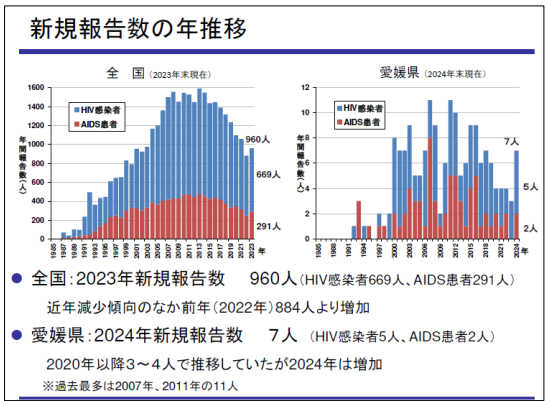


図1 愛媛県エイズ診療ネットワーク会議における講演内容（「愛媛県のHIV/AIDS

の届出状況等報告」より一部抜粋）

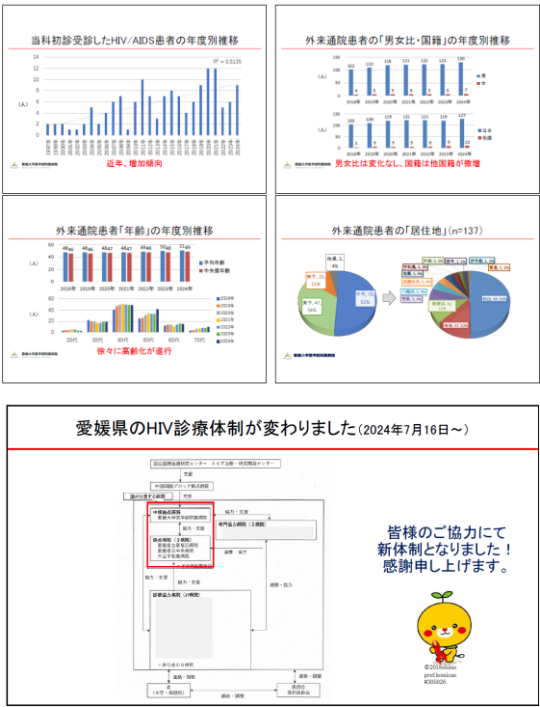


図2 愛媛県エイズ診療ネットワーク会議における講演内容（「愛媛県内のHIV/AIDS診療体制について」より一部抜粋）





図3 愛媛県エイズ診療ネットワーク会議における講演内容（「拠点病院の現況について」より一部抜粋）



図4 令和6年度 HIV に関する講演会内容（「歯科診療におけるHIV 感染症のポイントと愛媛県の現状」より一部抜粋）



図5 歯科衛生士専門学校における「歯科診療におけるHIV 感染症のポイントと愛媛県の現状」の動画視聴後のアンケート結果

令和7年2月1日、2日の両日、四国地域のエイズ中核拠点病院において HIV 患者に関わる全ての医療従事者を対象とした「四国地域の HIV 診療・連携の向上を目指した研修会」を愛媛県松山市で開催した。本研修会には計 28 人が参加し、参加職種は医師、看護師、薬剤師、公認心理士、社会福祉士、検査技師、栄養士であった。プログラムは以下の内容で構成された。講演 2 題：「HIV 診療における医療制度の落とし穴」および「愛媛県エイズ拠点病院の再構築と地域連携～愛媛大学 HIV 診療チームの取り組み～」、活動報告 1 題：「抗 HIV 持効型注射剤ボカブリア・リカムビスの当院における運用」、症例・課題検討 4 題（香川大学病院、徳島県立中央病院、愛媛大学病院、高知大学病院）、国際学会参加報告 1 題（ID week 2024）であった（図 6）。研修会終了後には講演資料作成を行い、参加者全員に配布した。研修会終了後にはアンケート調査を実施し、症例・課題検討を行った各施設に対してフィードバックを行った。なお講演およびコメンテーターとして参加予定であった国立国際医療センター医師は諸事情により不参加となった。

令和 6 年度

四国地域の HIV 診療・連携の向上を目指した研修会



石鎚山

令和 7 年 2 月 1-2 日
たかのこのホテル（愛媛県松山市）

主催
令和 6 年度エイズ対策政策研究事業（厚生労働省科学研究費）
課題名：ブロック拠点病院のない四国地域の中核拠点病院の機能評価と介護療養体制整備
研究代表者 末盛 浩一郎
愛媛大学医学部附属病院 HIV 診療チーム

令和 6 年度 四国地域の HIV 診療・連携の向上を目指した研修会
（2月1日～2日）

日次	時間	内容	講師・進行
2月1日	13:00-17:00	開会式・歓迎レセプション ・開会式（末盛浩一郎） ・歓迎レセプション（末盛浩一郎） ・夕食会（末盛浩一郎）	末盛浩一郎（愛媛大学） 末盛浩一郎（愛媛大学） 末盛浩一郎（愛媛大学）
2月2日	9:00-12:00	基盤講演1 HIV診療における医療制度の落とし穴 ～患者さんが利用できる制度の側面から～	末盛浩一郎（愛媛大学）
2月2日	13:00-17:00	基盤講演2 医療ソーシャルワーカー（MSW）の相談・援助 ～医療ソーシャルワーカーの役割と支援～	末盛浩一郎（愛媛大学）

研修会 2月2日（日）9:00-12:00

時間	内容	講師・進行
9:00-10:00	基盤講演3 HIV診療における医療制度の落とし穴 ～患者さんが利用できる制度の側面から～	末盛浩一郎（愛媛大学）
10:00-11:00	基盤講演4 医療ソーシャルワーカー（MSW）の相談・援助 ～医療ソーシャルワーカーの役割と支援～	末盛浩一郎（愛媛大学）
11:00-12:00	基盤講演5 HIV診療における医療制度の落とし穴 ～患者さんが利用できる制度の側面から～	末盛浩一郎（愛媛大学）

医療ソーシャルワーカー（MSW）の相談・援助

- ・初診外来や入院時に医師、看護師、心療士、薬剤師等と連携し、患者さんの生活の質の向上を図る
- ・（高年齢者医療制度、身体障害者手帳、自立支援医療など）
- ・入院された患者の権利を守るための相談・支援（生活保護、介護保険、障害年金、生活支援サービスなど）
- ・（院内・院外の医療者と連携した支援活動の推進）
- ・地域での生活環境の改善に向けた社会福祉活動
- ・心身、社会問題の解決支援
- ・地域活動

医療費助成利用のタイミング



図 6「四国地域の HIV 診療・連携の向上を目指した研修会」のプログラムと資料（一部抜粋）

高知県では令和 7 年 2 月 15 日に、医師・看護師・社会福祉士・訪問看護師、保健師を対象に「高知県 HIV 感染症研修

会」、2025 年 3 月 2 日に「高知県 HIV 陽性者歯科医療ネットワーク連絡協議会」、2025 年 3 月 27 日に「高知県エイズ拠点病院等連絡会議」、2024 年 6 月 7 日、11 月 8 日の 2 回にわたり「高知県エイズ拠点病院看護師連絡会」が開催されている。

徳島県においては、2025 年 3 月 7 日に「徳島県エイズ対策連携会議」が開催された。本会議には、県内の中核拠点病院、拠点病院、医師会、歯科医師会、保健所、血液センター、ならびに徳島県保健福祉部が参加した。会議では、県内における HIV 感染の発生動向および各機関の取り組みについて協議が行われ、あわせて他県におけるエイズ対策に関する講演も実施された。

さらに、「徳島県エイズ治療中核拠点病院連携会議」が、2024 年 5 月 15 日、7 月 17 日、9 月 18 日、11 月 20 日、および 2025 年 1 月 15 日、3 月 19 日の計 6 回開催された。本会議には、エイズ中核拠点病院である徳島大学病院および徳島県立中央病院の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカー（MSW）、臨床心理士が参加し、HIV/AIDS 症例に関する症例検討が行われた。

D. 考察

四国各県においては、拠点病院を中心としたネットワーク会議および意見交換が実施された。なかには、幅広い職種の医療従事者を対象として、複数回にわたる症例検討が行われている県もみられた。これらの活動を通じて、分担研究者により本研究の趣旨が各県において十分に浸透し、最終目標の一つである介護療養体制の整備へと結びつくことが期待される。さらに、HIV 陽

性者の高齢化に伴い歯科衛生の重要性が高まっていることから、歯科医師および歯科衛生士を対象とした教育講演を実施するとともに、研修用教材の作成を行った。愛媛県の歯科衛生士専門学校においては HIV 教育の実施が困難であるといった課題が明らかになった。アンケート結果からは、

「HIV に対する不安が解消された」、「HIV 患者に特別な感染対策は不要であることが理解できた」といった意見も散見された。これらの結果から HIV 感染症が現在では慢性疾患として管理可能であることを踏まえ、若年層医療従事者に対する継続的な教育の重要性が再認識された。

「四国地域の HIV 診療・連携の向上を目指した研修会」には、分担研究者に加え、各県において HIV 診療・連携で中心的な役割を果たす多職種の医療従事者が参加した。本研究会のプログラムは本研究課題の解決に資するよう、WEB 会議や 2024 年日本エイズ学会・学術集会の現地にて実施された班会議に参加した医療従事者の意見を反映して作成されたものである。研修会後に実施されたアンケート調査においては、本研修会に対する高い評価が得られ、各県における本研究の推進に資するおおくの示唆が得られた。一方で、「中核拠点病院でのみでは解決困難な課題」も指摘され、行政との連携が必要な領域が抽出された。次年度においても同研修会の開催を希望する声が多く寄せられ、2025 年 10 月 25 日および 26 日に、同様の形式での開催が決定した。

本研修会は、各県内における HIV 診療および連携体制の強化に寄与するとともに、四国 4 県を横断する広域的な連携の促

進にも貢献するものであり、本研究の推進において重要な役割を果たすと考えられる。地方におけるこのような地域間連携・活動は、全国的にも稀有な事例であると考えられ、今後は地方のモデルとして、その成果を全国に向けて発信していく必要がある。

四国は、全国の中でも HIV 感染率が相対的に高い地域の一つであるが、本研究の推進により、医療従事者および関係機関における HIV に対する意識の向上が図られ、HIV 陽性者の早期発見や感染予防の啓発につながることが期待される。今後も引き続き、指導・教育活動および現状を的確に把握するための調査研究に注力していきたい。

E. 結論

四国地域においては、拠点病院を中心として、歯科領域における教育講演や意見交換も実施され、これに関連する研修教材も作成された。また、HIV 診療および地域連携において中心的な役割を担う多職種の医療従事者が参加する研修会が開催されており、本研究のさらなる発展が期待される。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Nakamura S, Hara K, Kobayashi T, Sumitani R, Oura M, Maeda Y, Sogabe K, Yagi H, Takahashi M, Fujii S, Harada T, Bando Y, Abe M, Miki H: Toxoplasmic encephalitis with high 201Tl uptake and

retention mimicking malignant lymphoma in a patient with human immunodeficiency virus infection.

Parasitol Int.101:102895,2024.

2) Inoue Y, Tenshin H, Teramachi J, Sumitani R, Oda A, Maeda Y, Oura M, Sogabe K, Maruhashi T, Takahashi M, Fujii S, Nakamura S, Miki H, Hara T, Endo I, Kagawa K, Ozaki S, Hiasa M, Harada T, Abe M: Elotuzumab-mediated ADCC with Th1-like Vy9V82 T cells to disrupt myeloma-osteoclast interaction. Cancer Sci. doi:10.1111/cas.16401,2024.

3) Fujishita S, Inoue A, Watanabe H, Nishikawa M, Taniwaki M, Matsumoto S, Ochi M, Suemori K, Watanabe A, Kitazawa R, Shigekawa S, Ohyagi Y, Kunieda T: A case of immunocompetent intracranial cryptococcoma in which intraoperative rapid pathological diagnosis and polymerase chain reaction led to early treatment: What to know to avoid misdiagnosis as brain tumor. Surg Neurol Int. 3;15:330,2024.

4) Imataki O, Uchida S, Uemura M: Metabolic pitfall of pseudoprogression after epcoritamab treatment. EJHaem. 16;5(6):1346-1347,2024.

5) Kihara H, Yamamoto H, Shikata H, Kaneko M: A Case of Sepsis in Which Escherichia coli and Fastidiosipila sanguinis Were Isolated and Identified From a Blood Culture. Cureus. 16(8):e66159,2024.

6) Sasaki Y, Yamanouchi J, Takenaka K: A Novel Splice Donor Site Mutation

Leading to Inherited Type I Protein S Deficiency. Ann Vasc Dis. 25;17(2):179-182,2024.

2. 学会発表

1) 中尾綾、小西達矢、河邊憲太郎、加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、山之内純、竹中克斗. HIV 関連神経認知障害 (HAND) における Iowa gambling task の有用性の検討. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

2) 堀江健太、末盛浩一郎、桑原希、中川進平、乗松真大、中尾綾、宮崎雅美、若松綾、高田清式、竹中克斗. 複数の日和見感染症を合併し難治性病態を呈した AIDS 症例に対し、内科・外科治療を行い救命できた一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

3) 早川幸子、川田道子、加嶋真恵、吉田陽子、大田佐代子、小田優子、住吉健太、内田俊平、今滝修、北岡陸男. 脂質異常症を合併した患者に HIV ケアチームで継続支援を行った一症例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

4) 住吉健太、田中裕章、川田通子、加嶋真恵、吉田陽子、大田佐代子、小田優子、早川幸子、内田俊平、岩瀬孝志、小坂信二. 服薬アドヒアランス向上を目的に DTG+ABC+3TC レジメン 1 日 2 回服用から 1 日 1 回服用へ変更した小児 HIV 感染児の一例・続報. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

5) 中村信元、宮上慎司、荒井優子、泉侑希、岡本秀樹、北上早紀、後藤さおり、後藤由香、菅俊行、高橋真理、富永誠記、矢野由美子、三木浩和. 蛋白尿を契機に診断された HIV 関連免疫複合腎臓病合併キャスルマン病の一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

6) 中村美保, 向井三穂子, 前田サオリ, 渡部恵子: HIV 感染症患者のサポート形成支援 (人的支援) 一長期療養における他者への病名の打ち明け支援について考えるー. 日本エイズ学会認定講習会 (看護師). 第 38

回日本エイズ学会学術集会・総会、2024
年、東京.

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）
該当なし